



様々な芸術・文化に  
触れる体験

# 子供たちがつくる「MJコンサート」

小学校

日野市立潤徳小学校



笑顔と学びの体験活動  
プロジェクト

## 概要

児童の音楽に対する興味・関心を高めるとともに、独創性のある文化的行事を実施することを目的として、音楽の専門性の高い明星大学学友会吹奏楽団の大学生と本校児童が明星大学の(M)と潤徳小学校の(J)を入れた「MJコンサート」と銘打った交流を年間3回実施した。

育成を目指す  
資質・能力

- ・音楽に対する興味・関心
- ・器楽演奏の技能
- ・実行委員会方式に基づく児童の企画運営力
- ・独創的な文化的行事の成功による自己肯定感

## 年間指導計画

	4月	5月	6月	7~8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月
各教科等		年間計画の策定 連携先候補選定	連携先決定 各コンサートの原案策定	特別活動 コンサートに向けたリクエスト曲選定	体験① 新！MJコンサート (出発がテーマ)	授業：音楽 共演に向けた器楽練習	体験② 心！MJコンサート (共演がテーマ)	特別活動 ミュージカルのダンス、歌練習	体験③ 進！MJコンサート (感謝がテーマ)	

### 新！MJコンサート ～始めよう音のコラボレーション～

令和6年11月実施の本校の音楽会に向け、「東京都大学吹奏楽コンクール」で連続して金賞を受賞している明星大学学友会吹奏楽団とコラボレーションすることで、児童の音楽に対する興味・関心を高めることを目的として1回目の交流を開催した。

本楽団による、児童のリクエスト曲を中心としたメドレー等の演奏により、本校児童が、楽団員への親しみをもち、共に文化的行事である音楽会を成功させようというモチベーションを高める契機とした。

### 体験② 概要

### 心！MJコンサート ～つなげよう新時代のハーモニー151～

本楽団員による、本校の音楽の授業支援を日常的に行い、児童が授業で触れたことのない管楽器等に触れる機会を設けるとともに、児童に器楽演奏の個別の支援を行った。

その上で、本校児童で構成された「MJコンサート実行委員会」が中心となり、一つのストーリーによる、ミュージカル要素を取り入れた「心！MJコンサート」を開催した。

学年毎に本楽団と一緒に演奏することで、児童と楽団員との間に強い絆が生まれたとともに、質の高い合奏を披露した。

### 体験③ 概要

### 進！MJコンサート ～つなげよう感謝のメロディー～

3回目の「進！MJコンサート」では、2回目までの交流と異なり、「MJコンサート実行委員会」などの児童が主体となって企画したコンサートに、本楽団が協力する形とした。これまで本楽団員からの受けた支援に児童が感謝を表す内容とした。

本楽団と6年生の児童の演奏に合わせ、他学年の児童が歌って踊ることや、本楽団の演奏による校歌斉唱を行い、一体感を高めた。また、全校児童からのビデオメッセージ等を渡し、感謝の気持ちを表した。

### 体験① 概要



【学校・教員】

- ・管理職が本楽団の練習時間に大学を訪問し、本事業の趣旨等を説明し、連携の協力要請を行った。
- ・校内では、文化的行事委員会の教員が中心となって計画を立て、本楽団との折衝などを行った。
- ・本楽団の団長等と、オンラインで打ち合わせを行うとともに、夏季休業期間中には本校に来校してもらい、会場の視察を行った。



【児童】

- ・全校児童に、本楽団に演奏してほしい楽曲のアンケートを行い、結果を本楽団に提供した。
- ・高学年の児童による「MJコンサート実行委員会」が中心となり事前準備を行った。本楽団との新たな出会いという意味を含め、コンサート名を「新！MJコンサート～始めよう 音のコラボレーション～」とした。

## 【児童の声】

- ・自分の知っている曲をたくさん聞くことができ、楽しかった。
- ・楽団の人たちの演奏が上手で、自分もやってみようと思った。

## 【保護者等の声】

- ・コンサートは感動して涙が出た。学生たちの選曲もよかった。
- ・全学年の児童のとて楽しそうな笑顔と、一体感に音楽の力の凄さを感じた。11月の音楽会が楽しみになった。

本事業において、本校と連携できる専門家等を選定するに当たっては、全教員からのアンケートをとり、複数の候補の中から何回も協議を行って決定しました。条件に合致する専門家等を探し、連携の合意を得るまでに数多くの折衝が必要になりました。



「MJコンサート実行委員」は、高学年の児童の有志から構成されています。各コンサートの前には、休み時間などを使って打合せを行ったので、見通しをもって準備を進めることが大事です。

## 「新！MJコンサート～始めよう 音のコラボレーション～」

### 【実施日時】

令和6年9月27日（土）11:30～12:15

### 【実施場所】

本校体育館

### 【演奏曲】

リトルマーメイドメドレー

勇気100%

J-BEST

等

- ・学校公開日にコンサートを開催することで、全校児童に加え、保護者や地域の方など1000名を超える方々にご覧いただいた。
- ・コンサートの様子は、動画配信サービスの限定公開を活用し、当日、来場することができない方も閲覧できるように配慮した。
- ・会場は、ステージと体育館前部を楽団員が使用し、体育館のフロアで児童が観覧、周囲の壁面に保護者等の方々が立ち見となる形式とした。
- ・本楽団の演奏曲を事前に児童に知らせ、昼の放送等で楽曲を流したことなどにより、演奏中は児童が体を揺らしながら大きな声で歌うなど、夢中になって参加していた。
- ・保護者等の方々も演奏に合わせて手拍子をするなど、会場が一体となったコンサートになった。
- ・コンサート終了後は、希望する楽団員と児童と一緒に給食を食べる給食交流会が行われ、絆を深めるとともに、2回目のコンサートに向けた機運を高めた。



## 体験 2回目

### 計画・準備・事前学習



#### 【学校・教員】

- ・市の「特色ある学校づくり支援事業」の予算も活用し、楽団の方々に音楽の授業支援を行っていたが、授業では触れたことのない管楽器等に日常的に触れる機会を設けるとともに、児童の器楽演奏の技能向上を図った。
- ・担当教員が2回目のコンサートの実施計画を立案し、実行委員会の児童への支援を行った。



#### 【児童】

- ・音楽の授業を通して、本楽団の方々と2回目のコンサートに向けた合奏練習を行った。
- ・「MJコンサート実行委員会」の児童が、本楽団と心と心がつながった演奏を開校151周年の記念として行いたいという意味を込め、コンサートを「心！MJコンサート～つなげよう 新時代のハーモニー151～」とした。

#### 【児童の声】

- ・大学生のお兄さん、お姉さんと一緒に合奏ができてうれしかった。
- ・楽器の演奏で難しいところは、楽団の方が教えてくれたのでできるようになった。

#### 【保護者等の声】

- ・劇を織り交ぜてのコンサートを楽しく鑑賞できた。楽団の方々と交流が、子供たちの音楽の視野を広げてくださったと感じた。

本楽団の方々が、実際に本校児童の練習する様子を動画に撮り、その音源を基に大学で練習をし、テンポの調整や、効果音のタイミングの確認をしてくださいました。学校に大学での練習動画を送っていただき、リハーサルを行うことができました。



「日本のどこにもない新しい行事を創ろう！」との考えの下、「MJコンサート実行委員会」の児童が自由な発想の企画を考えました。教員は、その発想を生かすように児童のサポートを丁寧に行いました。



### 取組・実践

## 心！MJコンサート～つなげよう新時代のハーモニー151～

#### 【実施日時】

令和6年11月16日（土）8:45～11:50

#### 【実施場所】

本校体育館

#### 【演奏曲】

きらきら星変奏曲（1年生）  
ウィーンはいつもウィーン（3年生）  
よろこびの歌（5年生）  
小さな世界（2年生）  
ブラジル（4年生）  
アンダー・ザ・シー（6年生） 等

- ・コンサート当日は、保護者鑑賞日であったため、出演学年以外の児童は各教室のモニターで閲覧できるようにした。
- ・実行委員の児童が物語の主人公となり会を進行するというストーリー仕立ての構成にした。
- ・内容は、主人公が、各学年の演奏や曲を聴くことにより、「様々な音楽のよさに気付き、アイテムという『形』として取得する」というものであった。
- ・各学年の児童も演奏に合わせて寸劇を行い、ミュージカルを意識した発表を行った。
- ・本楽団から約50名が来校し、各学年の寸劇に合わせた効果音の挿入、打楽器、管楽器による合奏、保護者入替の際のバックミュージック演奏などを行った。特に6年生の「アンダー・ザ・シー」は、楽団の方全員による迫力ある演奏となり、アンコールも行われた。





# 体験 3回目

## 計画・準備・事前学習



【学校・教員】

- ・2学期のうちに本校の校歌の楽譜を本楽団に渡し、編曲、演奏音源の送付、コンサート当日の演奏について依頼した。
- ・体育館のフロアを発表会場として設定し、楽団の方を交え、実測して準備を進めた。
- ・「MJコンサート実行委員会」の児童とともに、全校ダンスの練習動画を作成した。



【児童】

- ・朝の時間を活用し、「アンダー・ザ・シー ミュージカル」の全校ダンス、本楽団の演奏音源による校歌練習を行った。
- ・ダンスクラブの児童が、クラブ活動の時間等を活用し、本番用のダンスの練習を行った。
- ・楽団の方々に感謝の気持ちを表すため、全校児童によるビデオメッセージを作成した。

## 振り返り・事後

【児童の声】

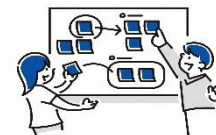
- ・楽団の方に校歌を演奏してもらって、とても気持ちよく歌うことができた。
- ・最後のコンサートなので、ちょっと寂しい気持ちになった。

【保護者等の声】

- ・小学生と大学生のコラボレーションはあまり例がないので、互いに貴重な経験になったのではないかと感じました。今後も継続してほしい。

## 成果

- ・高い専門性のある明星大学学友会吹奏楽団と年間を通じてコラボレーションすることにより、単発の交流では得難い人と人とのつながりが生まれ、相手のことを意識した質の高い、笑顔あふれる交流を実践することができた。
- ・本楽団の方々から、普段の生活や授業では触れたことのない管楽器等を数多く紹介していただき、演奏の仕方を教えていただいたり、音色を聞かせていただいたりして、児童の音楽に対する興味・関心を高めることができた。
- ・高学年の児童による「MJコンサート実行委員会」が各コンサートの企画運営、ネーミングの決定、全校への周知、会場装飾などの全般に関わり、児童主体の行事を創り上げた。また、その努力を全校児童から認められたことにより、自己肯定感が向上する様子が見られた。



## 進！MJコンサート ～つなげよう感謝のメロディー～

【実施日時】

令和7年2月8日（土）9:35～10:20

【実施場所】

本校体育館

【実施内容】

アンダー・ザ・シー ミュージカル（歌と踊り）  
本楽団演奏による校歌斉唱  
児童から本楽団への動画等のプレゼント 等

- ・会場の観覧場所が限られたため、保護者等の方には、動画配信サイトの限定公開に加え、全教室を開放してモニターで観覧できるようにした。
- ・「アンダー・ザ・シー ミュージカル」は、本楽団と6年生の児童の合奏に合わせ、ダンスクラブの児童が創作ダンスを披露し、1～5年生の児童が歌と海の世界を表現したダンスを踊った。
- ・本楽団による、専門家が編曲した校歌の演奏により、重厚で荘厳な雰囲気在校歌斉唱となった。
- ・学校側からは、本楽団に対し、全校児童参加のビデオメッセージと、実行委員による寄せ書きを贈った。



## 取組・実践